日本内視鏡学会第 4 回北海道地方会抄録

（第 41 回北海道医学大会分科会として行う）
昭和 36 年 9 月 30 日　於　北大医学部東講堂

（ 1 ） 腹腔鏡 100 例の観察

北大高杉内科
並木正義，長野一雄
坂野輝夫，石田祐一

（ 2 ） 胃潰瘍のカメラ像（第 1 報）
―蝸牛殻状旋回を伴う胃潰瘍のカメラ像―

市立函館病院内科
橋元富一郎，西川義憲，田中修市
今谷英男，山岡倭子

（ 3 ） 胃カメラ像と胃液分泌能
― 胃液診断 profile の提唱 ―

札幌医大内科
佐藤勝己，工藤雅之，高須重家
村山章史，戸次英一

（ 4 ） 胃カメラによる十二指腸球部撮影の試み

北大三上外科
唐沢洋一，番場敏行

日本内視鏡学会第4回北海道地方会抄録

（第41回北海道医学大会分科会として行う）

昭和36年9月30日　於　北大医学部東講堂

（1）　腹腔鏡100例の観察

北大高杉内科
並木正義，長野一雄
坂野輝夫，石田祐一

最近行った腹腔鏡検査100例をとりまとめ，その中から興味ある，また参考となる症例をとりあげ，スライド及び16ミリ映画によって示すと共に，腹腔鏡検査に関する2，3の問題についてのべた。

検査対象となった100例のうちわけは，肝疾患48例，胆嚢，胆道疾患6例，胃疾患32例，膵疾患3例，その他6例となっている。

胃癌患者に対する施行例が31例と比較的多いのは，胃癌のより適確なる診断と，手術適応判定のために腹腔鏡を行っているからである。即ち極めて少い侵襲で腹腔内をよく観察し，胃の漿膜側の変化，他臓器及び腹膜への転移の状態などを知り，手術適否の判断を下すことは大いに意味のあることと思う。

その他肝，脾のバイオプシーを行う場合の具体的要領び工夫，更に癒着のあるときいかにすべきか等の実際問題につき若干の知見をのべた。

（2）　胃潰瘍のカメラ像（第1報）
—蝸牛殻状旋回を伴う胃潰瘍のカメラ像—

市立函館病院内科
橋元富一郎，西川義憲，田中修市
今谷英男，山岡倭子

われわれはレ線検査で蝸牛殻状旋回を示した胃潰瘍7例（うち手術実施6例）の胃カメラ検査を実施して次の結論を得た。1）手術実施胃潰瘍例の肉眼所見と正確に所見の一致したレ線所見は4例，胃カメラ所見でも同じく4例であった。2）胃カメラ検査で正確な所見の得られなかった2例の原因は，胃の著しい器質的，機能的変形による胃カメラの過度の挿入と，蠕動輪（Peristaltic Ring）の欠除乃至は異常のため，潰瘍像を蠕動輪上に写出し得ないためであった。3）胃カメラ検査で写出し得た潰瘍5例（うち高位潰瘍1例を含む）中，蠕動輪上に潰瘍をとらえ得たものは1例もなかった。以上の経験から，蝸牛殻状旋回を伴う胃潰瘍の正確な胃カメラ像はこれを伴わない胃潰瘍に比較して困難であり，且正確な所見を得るためにはレ線検査と胃カメラとの併用が必要である。猶，良性と考えられる蝸牛殻状旋回を伴う胃潰瘍の手術例6例中に2例の悪性変化と1例の腺腫を認めた。

（3）　胃カメラ像と胃液分泌能
— 胃液診断 profile の提唱 —

札幌医大内科
佐藤勝己，工藤雅之，高須重家
村山章史，戸次英一

検索せる胃液諸成分の中分泌率としてみた液量，酸度，Pepsin活性，Mp（Mucoprotein），Mps（Mucoproteose），Hxs（Hexose），Hxm（Hexosamin），Fucose，sialic acid, DPA 反応および胃液蛋白泳動像と，胃カメラ所見および組織像との対比の上に一つの診断プロフィルを考案し症例について考察した。成績を一括考察すると潰瘍症等高分泌高酸群では組織所見上も腺体部の充実がみられ，これに伴い塩酸，Pepsin 活性，Mp の増量と他の化学成分の低値がみられるが，萎縮性胃炎，胃癌および慢性胃潰瘍等では線組織の荒廃に伴い，これら生理的成分の分泌減少と同時に Mps，Hxs，Hxm，SA，DPA 反応物質の増加を認める。特に胃癌では SA，DPA反応の増強が注目される。泳動上胃癌でB_1峯が平低乃至消失することはMpとの関連において意義あるものと考える。各症例につき胃カメラ像，組織像を供覧した。

（4） 胃カメラによる十二指腸球部撮影の試み

北大三上外科
唐沢洋一，番場敏行

幽門輪の観察から，十二指腸粘膜所見を，消極的に論じていた。近接レンズや，カメラが細くなった事から，十二指腸粘膜直接撮影可能ではないかと考へるに至った。開腹術中安全なることを確め，カメラを十二指腸球部に挿入して撮影した。五例の所見では，全例に於て，十二指腸粘膜面に胆汁液が認められた。胃カメラ先端に胃ゾンデを付け，洗滌と吸引及び大彎側へ胃カメラがぶっかり，進行不能となる時，口腔外よりこれを引張り，胃カメラを屈曲させ進行を容易にさせ得た。レントゲン透視下において，胃十二指腸ゾンデよりビリグラフィンを注入し，十二指腸球部の位置の決定を行った。複合ブスコパン静注による幽門輪の観察を試みた。今後胃カメラが川島式十二指腸ゾンデの如くなると，容易に撮影されるのではないかと考える。又東大田坂内科における，十二指腸カメラに期待する所大である。